

大会宣言

「3・11」から半年。私たちは大震災と原発事故というかつて経験したことのない事態の中で、さまざまな葛藤や苦闘を経ながら、自らの手で一つひとつ展望を掴み取り、今ここに集まっている。本大会は被災地福島・東北をはじめとして全国の学生が結集し、大成功をおさめた。本大会を通して生み出された団結を糧とし、明日からの新たな闘いに打って出よう。

第一に、「フクシマの怒り」と一つになって、全原発の廃止に向かって突き進もう。

福島第一原発事故は紛れもなく日本における「3度目の原爆投下」であった。何万人もの人々が避難を強いられ、自らの住む町、生活、仕事、あらゆるものが奪われた。しかし日本政府は原発維持の姿勢を崩していない。原発を維持するという一点で事故直後からあらゆる情報が隠蔽され、御用学者を先頭とした安全キャンペーンが繰り返され、今なお福島の人々は放射線管理区域を超える高濃度汚染地帯での生活を余儀なくされている。原発政策の堅持とはとりもなおさず、日本における核武装政策、「原子力ムラ」と称される利権構造の維持にある。

しかしこの状況に対して福島の人々が心の底からの怒りの声をあげている。放射能への恐怖、国家をあげた福島の切り捨て一この極限的状况の中で立ち上がる福島の人々の姿こそ、人間の可能性を余すところなく示している。「ぜひ若い人たちの力で原発を止めて下さい。二度と福島のような子供たちをつくってはだめです」（子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク世話人・佐藤幸子さん）「私たちが発言すれば変わります。原発はなくせるはずです」（6・19 福島現地集会における福島大生の発言）—全国の学生はこの声に全力で応え、全原発の停止・廃炉を勝ちとろう。

第二に、本大会をもって、全国で学生自治会建設に着手しよう。

「3・11」によって大学・教育・学問の腐敗が容赦なく暴きだされた。04年の国立大学法人化を最大の契機として大学は原子力ムラの一角に組み込まれ、原発安全神話が流布された。原発事故直後から御用学者は福島現地をはじめとして、安全キャンペーンを行い、子どもたちをはじめ多くの人々を被曝させた。そしてあらゆる大学が節電キャンペーンに与し、政府の原発維持に加担した。

これらの状況を生み出した最大の要因こそ新自由主義政策の下での「教育の民営化」である。「教育の民営化」によって大学は公然と「営業権」＝金儲けを主張するに至り、学生は「学費・就活・奨学金」の三重苦に縛り付けられた。大学から真実が奪われ、教育と学生が金儲けの道具となり、怒りの声がつぶされることによって、大学で原発が推進されることになる。

しかし法大闘争は、「教育の民営化」と対決し、学生の団結と行動に唯一の希望があることを示し続けている。そして本大会において5年半に及ぶ法大闘争に勝利したことを宣言し、法大文化連盟や東北大学学生自治会の実践と教訓にふまえ、あらゆる学生の声を束ね上げる学生自治会の本格的建設に着手する。全国大学で学生自治会建設に打って出よう。

第三に、9・11－9・19の反原発デモの先頭に学生は立とう。「再稼働阻止」の巨万の大衆行動を巻き起こそう。

日本にある原発54基のうち、すでに43機が停止し（9月10日現在）、来春4月にはすべての原発が停止することになる。しかし菅政権に代わって登場した野田新政権は年内の再稼働を目論み、海外への原発輸出も公言している。この野田新政権を支えるものこそ、一方の財界であり、他方での連合をはじめとした既成労働組合である。

9月19日に明治公園で行われる5万人集会が最大の焦点となった。この集会には連合や全労連が動員を決定している。一貫して原発政策に協力・加担してきた連合・全労連は、原発への怒りの声が満ちあふれる中において、その声をゆがめ、「段階的廃炉」＝再稼働への道を開く最悪の役割を果たそうとしている。

しかし原発に対する怒りの声は満ちている。原発との闘いは、新自由主義との闘いであり、学生・労働者民衆が生きることそのものをかけた闘いである。そこに和解や妥協の余地は一切存在しない。原発への怒りはこれから爆発していく。本大会の参加者を先頭に、9月11日原発反対の全国行動を成功させよう。その力で連合・全労連の制動を突き破り、9・19集会を大成功させよう。

第四に、11・6反原発・反失業大集会に集まろう。全世界の仲間と連帯し、新自由主義を打ち破ろう。

チュニジア・エジプトに始まった革命の大波は、新自由主義による学生・労働者民衆に対する支配のくびきを打ち破り、新たな社会の到来を告げ知らせている。世界大恐慌の本格的な深化・激化はまさにこれからであり、全世界における闘いはますます強化・発展していく。

なによりも全世界で学生をはじめとした若者が闘いに立ち上がり始めている。イギリスでは若者たちが「暴徒」と罵られながらも、渾身の決起を開始している。その内実は、財政破綻を口実にした増税や公的部門の削減など、一切の犠牲を民衆に転化する政府に対する「奪われたものを奪い返す」闘いであり、人種差別などあらゆる分断を打ちやぶる誇り高き人間奪還の闘いである。

世界大恐慌による戦後世界体制の崩壊と新自由主義の破産、全世界的な学生運動と労働運動の高揚—この情勢を現代世界の根本的変革へと転化できるか否かは、日本の学生・労働者民衆の双肩にかかっている。11・6大集会を全世界の仲間と連帯する反原発・反失業の全世界統一行動として成功させよう。11月集会を主催する動労千葉は、全世界の労働組合の中で唯一、新自由主義を打ち破ってきた労働組合である。すべての青年・学生の未来をかけて動労千葉とともに闘おう。

これまで私たち学生は政治から切り離され、社会と大学の主人公としての可能性を奪われてきた。しかし「3・11」はあらゆる人々の価値観を転換させ、行動へと駆り立てている。名もなき一人の学生の存在と行動が、天下国家を揺るがす時代が到来している。学生の団結を甦らせ、学生運動の壮大な発展を勝ちとろう。